

第5回 蕨市将来ビジョン審議会 会議概要

■日 時 令和5年8月25日（金） 午後3時00分～3時30分

■場 所 福祉・児童センター3階・集会室

■出席者 （敬称略）

委 員：林大樹（会長）、坪井真（副会長）、前川やすえ、古川歩、岡田三喜男、
武下涼、本田てい子、植田富美子、平田毅、長谷川浩司、岡本和子、木田麗花、
笹渕敏子、島村幸子

事務局：阿部泰洋（総務部長）、佐藤則之（総務部政策企画室長）、島田雅也（総務
部政策企画室主幹）、市川翔太（総務部政策企画室主査）、
横山徹（株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング）

■次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 前回の会議概要について（確認）
4. 議題
 - （1）蕨市将来構想（パブリック・コメント案）について
 - （2）答申書の検討について
 - （3）その他
5. 閉会

■内 容

【前回の会議概要について（確認）】

事務局から前回の会議概要について確認を行い、了承された。

【議題】

（1）蕨市将来構想（パブリック・コメント案）について

事務局から、前回の審議会のご意見等を踏まえた修正事項等を含め、蕨市将来構想（パブリック・コメント案）について説明した。

委 員： 現行計画では、「目指すまちのビジョン」（まちの将来像）に先立ち、「まちづくりの理念」があった。今回は理念が見当たらない。理念がないとビジョンが描けないようにも思えるがいかがか。

事務局： 現行計画では、まちづくりの理念を「みんなで未来の蕨を創る」とし、まちの将来像として「安心とにぎわい みんなにあたたかい 日本一のコンパクトシティ蕨」というフレーズを掲げていた。今回については、その2つを併せたイメージで、目指すまちのビジョン「安心・にぎわい・未来 みんなで創る みんなにあたたかい みんなのまち蕨」を掲げたものである。

委員： 資料の6ページに「環境にやさしい循環型で持続可能なまち」とあるが、「環境にやさしい循環型」とは、どのような意味か。

事務局： リサイクル等の資源の循環などを通して、長く持続していけるまちづくりを行うということである。

会長： それでは、他にご意見はないようなので、蕨市将来構想（パブリック・コメント案）については、修正案のとおり了承し、パブリック・コメントに付すものとしてよろしいか。

（異議なし）

（2）答申書の検討について

事務局から、現行計画策定の際の審議会答申書を例とし、答申書の検討について説明した。

委員： これからのまちづくりには、多様な主体の連携と、市との協働が欠かせないと考える。例えば、多様な主体がそれぞれの役割を果たし、知恵を出し合い、連携し、協力し合ってまちづくりの目標を達成することが大切である、といった趣旨が盛り込めればよいが、答申書には、このような審議会から市民に対する呼びかけが含まれてもよいか。

事務局： 審議会の総意としてそれを盛り込むことが妥当である、ということであれば、盛り込むことはありえると思う。

委員： 情報の共有も重要になってくる。このままデジタル化が進むと困る人もいるだろうし、そういったことの対策も含めて、答申書に記載できればよい。

委員： 前回の答申書には「住みやすく活力あるまちを目指して」との記載があるが、蕨市は今もとても住みやすいと思っている。今の良さを維持しながら、「更に住みやすい」、「なお住みやすい」まちを目指すのだ、ということが伝わるようにしたらよいと考える。

委員： 答申書に盛り込む意見の量について、何か制限はあるか。

事務局： 特段の制限はない。

委員： そうであれば、審議会から出た意見を全て、整理の上で盛り込むこととしてはいかがか。

委員： 市は、市民が身近なまちづくりに対して自発的、積極的に取り組んでいけるよう支援を充実させる、といったことを盛り込んではいかがか。

会長： 市民に占める外国人人口の比率が、10年前は5%程度であったのが、現在は10%程度となっている。これは、現行計画策定時から、随分と変わった点である。この審議会でも、これまで多文化共生のまちづくりについて取り上げてきたが、答申書にも多文化共生について盛り込めればと考えている。

副会長： 市民が身近なまちづくりに対して主体的、積極的にどう関わっていけるようになるのか、という点を明記するのもよいと思う。審議会から出た意見を全て盛り込む、という意見もあったが、全部入れられるかは別として、10年前の答申書は意見が並列的に列挙されている感があるので、少なくとも、もっと体系化して示せばよいと思う。

会長： 他にご意見はないようなので、いただいたご意見を踏まえ、答申書案として整理するというところでよろしいか。

(異議なし)

(3) その他

事務局から、パブリック・コメントの実施概要、第6回審議会の検討内容とスケジュールについて説明した。

委員： 市民にわかりやすくパブリック・コメント案を示せばよいと思う。例えば、これまでの10年間の成果や課題、それにどう対応して作成したのかといったことも示せば、市民により分かりやすくなるのではないか。

事務局： どのような形で対応できる分らないが、ご意見として承りたい。

委員： 都市形成の概念図に「地域らしさの核」とあるように、各地区ではこれまで、コミュニティ委員会を核としてさまざまな取組を展開してきた。これは蕨の大きな特色であるので、各地区のコミュニティ委員会の会長さんには、ご意見を伺った方がよいと考える。この10年は、とても大切な10年であるので、事

務局からお声掛けしていただけるとよいと思う。

事務局： コミュニティ委員会へのご案内も含め、パブリック・コメントの周知方法については検討したい。

委員： パブリック・コメントに対し意見を出す手法は、何通りあるのか。

事務局： メールやファックスによるご意見の受け付けのほか、公共施設に蕨市将来構想（パブリック・コメント案）を置くため、その傍らにある応募用紙で、ご意見をお出しいただくことも可能である。

委員： 広報蕨に、蕨市将来構想（パブリック・コメント案）を掲載し、意見募集することはしないのか。

事務局： スペースの関係で全文掲載できないが、パブリック・コメントを実施する旨の周知は広報蕨に掲載する予定である。

会長： 他にご意見がなければ、以上をもって本日の審議会を閉会とするということ
でよろしいか。

（異議なし）

【閉会】

以上